令和6年10月3日

第3学年保護者様

加古川市立氷丘中学校
校長 加藤 勉

令和6年度全国学力・学習状況調査結果の返却及び結果の概要について

初秋の候、保護者の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。さて、4月18日に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が返送されてまいりました。本日、お子様の調査結果（個人票）を返却しましたのでお知らせします。

なお、調査結果（個人票）に示されているのは、学力の特定の一部分ではありますが、これまでの学習等の成果や取組状況について、お子様とともに改めて確認する機会にさせていただければと思います。また、今年度の本校3年生の結果の概要は下記のとおりです。詳細は、ホームページをご覧ください。

記

1 学力調査の結果から

本校3年生全体の平均正答率は、全国及び県平均と比較すると、国語・数学とも全国及び県平均を上回っていました。特に、数学の「数と式」「データの活用」、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域でとても良好な数値を示しています。問題形式では、2教科とも短答式の正答率が高く、数学においては選択式でも全国及び県平均より高い数値でした。2教科とも無解答率が全国及び県平均より低く、時間いっぱい粘り強く問題に取り組む生徒が多いこともわかりました。ただ、国語の“意見と根拠など情報と情報との関係”について問う問題や、数学の“筋道を立てて考え証明する力”をみる問題において課題が見られました。これらの課題克服のためには、学習活動全般を通じて「基礎・基本の習得」のみならず、「主体的・対話的で深い学び」の充実が必要であると考えています。

2 質問紙調査の結果から

「学校に行くのは楽しい」「先生は自分のよいところを認めてくれている」「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と感じている生徒の割合がとても高く、全国及び県平均を大きく上回っていました。友達や先生と良好な関係を築いていると感じている生徒が多いことがわかりました。また、「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に回答した生徒の割合も高く、多くの生徒が将来を見据えていることもわかりました。学習時間は全国平均よりやや長く、県平均を上回る結果でした。さらに、スマートフォン等でのSNSや動画視聴やゲームに費やす時間が、全国及び県平均と比べて短いという結果も示されています。

本調査結果を十分に検討し、子どもたちの力をさらに伸ばしていくための今後の手立てとして活用してまいります。